

# 総 括 評 価 表

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 へ の 課 題 と	
重 点 課 題	重 点 目 標	評 価 指 標 ( と 活 動 計 画 )		評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
II 臨地実習での指導方法を工夫し支援体制を整備するとともに、看護師国家試験全員合格を目指す。	《全校レベル》 臨地実習において必要な基礎学力の充実を図り、生徒の力量に応じた個別指導に取り組み、全員の看護師国家試験合格を目指す。  《下位組織レベル》 ①看護科と専攻科の連携を深め、臨地実習指導の充実を図る。 [看護科教員] ②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。[看護科教員] ③臨床側指導者と密接な連携を図る。 [各施設担当者] ④国試演習の充実を図る。 [進路指導課] ⑤模擬試験の有効活用に取り組む。 [進路指導課]	評 価 指 標	①生徒が意欲的に臨地実習に臨めるように事前指導の充実を図る。実習事前レポートを期日までに100%の生徒が提出できる。	①実習事前レポートは期日までに100%の生徒が提出できている。各実習前に事前指導を行うとともに、看護科2年生には実習前総合評価を実施している。また、保護者全員に説明を行った。 A ②実習前にはゼミ形式による看護過程の指導を行った。また、実習中は個別指導を行い、実習の充実に取り組んだ。インシデントレポートにより思考判断能力の育成を図った。 A ③実習中は病棟師長・臨地指導者と毎日連絡を取りながら実習指導を実施している。 A ④看護科3年生及び専攻科生は実習終了後、実習場面の振り返りを行うことにより学習効果を深めている。 A ⑤専攻科において、年間の模擬試験・校内模試は1年生12回、2年生18回実施している。国家試験に照らし合わせて結果が必修問題8割、一般問題7割に満たない者は再試験を毎回実施している。 A ⑥国試演習では、出題基準に準拠した内容とし、各領域別に細やかな指導を行っている。 A	総 合 評 価	実習前のゼミ、臨床指導者との連携、実習の振り返りと支援体制、実習内容ともに充実している。 また、看護師5年一貫教育は、最年少で看護師免許を得るコースであるが、国家試験合格率100%と高い水準を維持できている。  (所見) 臨地実習では個別指導に努め、看護記録や看護過程の充実を図った。実習中は毎日、実習病棟スタッフと連絡を取り合い、支援体制を強化した。また、看護師国家試験全員合格をめざし国試演習や模擬試験の充実を図っている。
		評 価 指 標 による 達 成 度	②個人面談による個に応じた指導に取り組む。適切な資料の提供等生徒が実習しやすいような支援体制を整える。		A	
		活 動 計 画	臨地実習に生徒が意欲を持って取り組み、実習を通じての学びを深め、看護師国家試験に意欲的に取り組めるようにする。 ①校内の講義・実習と臨地実習との関連を図り、適切な教材の提供を行う。臨地実習事前レポート課題の内容を精選し、長期休業前に提示する。 ②臨地実習中は随時、個別指導を行うとともに図書を活用させ、自ら学ぶ環境を整える。 ③病棟ごとの報告を徹底し、生徒・教員間で連絡・相談を行う。 ④各模擬試験の得点率が、必修問題8割、一般状況設定問題6割以上になるまで再テスト実施し、生徒個々の基礎学力の定着を図る。 ⑤補習や国試演習は習熟度別等のグループに分け、個に応じた指導が行いやすいようにする。		活 動 計 画 による 実 施 状 況	
				A	臨地実習関係機関との信頼関係をさらに深め、維持していく ほとんどの生徒が真面目で前向きに取り組んでいる。臨地実習の専門性が深まるとともに支援が必要な生徒が数名いるので、サポート体制を強化していく。	